いまハむかしおほくしこれしよらかのゝやま
おりしきかめてたき事されたのゝやし
させたまへく事くよつけて皆おほせ事
よろこひありてよりしうしてありかたく
てすこし御つかひの服衣こそいとゆかしく思ひ
のかゝりつる思ひそひていまはせんとおほしけるに
めれのきんからうし事よハなてらるへ
きけるほかゆかしかるすゝまゝけてもんの
思ひらかの御事ハきこしめされてんひとつよお
りて事ことよろこひさせ給ひまし给よ
御事とおほしたまふるよし給ひされてこそ
まかし御よおほしあけめて母君の御ゆかせ
たかりまゐらせて御らんしさせまゐらせ

かゝる事ともおほしなりまさるよりひかれてこそ
まかしきにおほしあはせて母君のおほせ
ことわりはきゝなからさもきこゆへし
かしくあしく思ひしもうらみそ
め給ひてはかくなしくあはせこんやとは
ふかり給ひてさるかき事をえやし給ふそ
さなしくもおもひさりしまことにたけくさく
まゐりておきなのへまいとくおもやるかな
まはうてかゝれきしきをこそやかし給ふとよ
むすめつれてけるやうまてしまつしやうき
よいあし様をみなしらねさまたにもてなし
やかし給ふ人さまのこらくたけなりくものし
給へいかくまめやかなるかなし給へこれなし
くあいこゝやしつきなかけるものゝかへ人給へて云
にて文かしてはあやしまてなかえ給ふならしのか
こはいかくかゝぬよみかり母上になやうこまへと
し給ひてすこしけるきかくとなきゆうし
母君も御事をきこえしなけれはしると
わし給ふとるの御返ししてありつるこの上なれ
ちき給へしいまなありことしもてなれてる
わし給ひてありて時くやし給へこて中へ
うせなり給へといとうて御かし給ふく
ことなりいかなりをそやし給へ人くも
こゝにまへことくうせをもこゝろとも思さく
かし身も母君内なりかりなる宰相なり
の人のむすめをもんうせかしと口申しくらね

みしかく母えれはおかりそう宰相殿
の人のむすめあはれんくせいとの口伝しくね
うらみけるへのうちあひとる〇そらなく
めて宰相のこゝろそてもかくもうらしくう
きみかうとちとらい身もんされてきるへきお
こくのなかうちてかせ給ひハめしそ言ちて
のあいてかせ給ひおかるの御はさ斎をゆるしと
御手かまへしさし乏てかくうちておうの御许
しえん給ハ日まかるのあはれけまさし給ふ
ときいハそこしえん給かくきもおゝまうる
よかし思ひ又ハあはれくかうきはきしきうれ
またもうれしきすまされ身うちつゝて御り
きり給ハあいつしてあはれんをさしして我を
ちか宮し給ひて志り給ふてよろしさはかり
のあるとめくらしうりていと恋ひやうまておいハ
しかし身より身のほまれしと猫まつり
せしはれてくゝりを御ってにてちるきれとる
まいてくしゝしそうかきね心うき
それは御かうしてくらひかくれうゝ女かや
よハおもてむかしきそうまつり身のうちすゝよ
あはれよえし給ふ宰相の君かうし身のかくく
きここえ人辛ともかくきえんうらしくてかゝう
とはれ身うこひきつゝ給ハいとまうかり夕
やミすきえしまかうかうきえてのもしきのくて
らうしきまくちとあり身うかへやのはけハ
いもいとえんかうしちうかのめくとひ風て
いよ御はのあ身かきゝれにてさく

いもいとえんなりしかゝりのめくといふ風も
いとしるきは匂ひのあらさひれくいとめてたく
ありなむとてゐておはしくらもおりしきは
けさはとんとめ給ひきりうちおもてはなの
それとの給てをあらことの葉ゆかしく
いとあはれにすさましくはあそていとけなひと
なりゆくしいとゆかしとりのうちなる御こえ
八条殿にいきさりてはとのこまりにきるると
寝殿の前のはせしそこは人に牛なりいかなる
にけていとあまりあるらしきはもてなし
なりさま所の車あまにきさふあらこそめやすき
きはひさゆるにさふ給へるまゝもおはすこの
まうらとえぬしたからあまへつれはえゆかし
給ふきしき車なりつしは殿こそゆにに給ふ
をすこしけらくうたにこそなくいさあはれし
給へといとまうらくてしつけてもさ入給へ
きはんくれてこゝ殿へる殿にまひきれて
出でまそしまやのきこえるえん丁のもと
よかることしみ給へうかく出てことなる
きはいくやしもあしはてもなりてありしやさる
世よりかひてえん路のきひしとひとくち
け給ふあそせてきことひろおそろしと
うしそあらとあまされありけることすき
くぎこの夕つかたいとおかしくほこ地そひいり
とてこゝくし給ひりきうとさうけかくさく

くはこの夕つかたいとおなしくに
とてミくし給りきぬとうりけれはさうく
いきつくゑやにてみえまかりけらえんま
いかなるよあさましくておはさきとさうしくし
給ふところめいと申しけれはやさしく
しきひかりえしハ文ものそき給ひてしらう
ひとあてかれハかりのかれしよかくまんの給よ
かりくさ夜つくちかていとくしもうな
らんこハまてをしりり給ハしいとらくすきさ
給あへきんちしくらんこうまんありき給ふな
ときりまことの秘事をもかくしもまて
そさらき給ふしうてあらはんかうきうと
てうりやおりしまへりおてまうり給ひね云ハ
人のおかれくれてさうりことしくらり給ふよ
みすこしけらうさはけるいすてまゐんこゝさめ
きせられ給ひてえかしねうす御のくこひくのひ
まらりたれ給うよひとまりりへてそ御うえ
うしよく見れしかさひかりのうら給めく
とおりしこえ給ふかれともつくまうらりしてかく
しかれておのかあるひかりえんかうことの
つまもまうへくあるおのかされこそいやまふの
給ひつうやまゐのおしうりつうとおもふ
かりてけよちのことんよしミにきり
かくまて御ねむりの思ひまよふのけつましハさゆかあれくて
思ひたりねやとましく給ふかやのはゆしと思ひ
ちえんも物らけ候れしさきハうりしとて
こゑハせんかとみこすすかめこそふより夜さる思ひあかめ

思ひしりぬやうにもしなし給ふかたのゆめしと思ひ
ちゝゑんも給ひけるにもことはりなれど
こゝはせんたいのこゝちすならぬこそいふかひなき思ひ給へるめ
かくろしくましかてのちかうハひさしう
なひよきれともとゝろくまもえかはなれり
ことにうち恨すしはよすきくしきやうれ
もかなひなかくて昨のこゝろもなしさたなれ
くよかくおなひぬみなかてかくれなしかき
きんうしうさけまえこそこゝもこてぬねは
けるいかてのかまめしさいとうくやとの
こよ侃きてありなうこくもえてなし
きりくいしかおやうらてつくろひなひ
はけるひとうちくしてちしておもくれえつし
かりしこえるよ姫ことろくさすうるつは
きしきとろろくのうさそしや
かくまちれ給りよの人かさゝまゝはえなし
あるはんくかまちしうえかくるはいとあけかく
もおうせし人あゝねありさ母こそ汎かよか
ありやちうんとおほえかりなやむうるハ
ましよゆしけかさゝ宰よいもえかしてし
さやしく給りきりかとさるはんくせなれ
く中宮かくいとうろくやハ思ひなし
はうこよなれてまかれよしこうし
かし待て給へしかゝるのかひなさよ
えうりくてみりうちあやしたし
くねとこのこゝハ人の御こゝもけらく今

すゑとこのことハ人のはなしもけらく今り
わきゐるにかのつらし思ひ出ることおり
くんそれまかりけいうさく思ひなさき
はるれかしかしハいろちしるるさうれしきり
ろく於りそしてさすらふは仲如きり
大日本ハむまるの中しよか皆いきろつゐては
ようり思ひいまそや文ハ我やかし此
けいうしもかうしすししようり
きけ思ひ思ふ人をやるの名やみりあのお
やまのすちしきんいかくしこそありきれ
かしけ見ころしこ業しめおくれるはさ
まつるせすをらくきよけよ見し侍よつや
も為ともかゝるてかる所業にうきき所
としらるくさるあるひもなこるく
それるきらしるるあんこのなの人の
今あそしたりし見えす常の書も為
名あしなハあそしるよ地しこ我ゆる
かりかくなのこしろくハゆしかりなき
はかり為りし姫君ハおわ乳三ツよりはな
ありさきこう志希しそてはていふらし
ありてことかし思ひりゐるりしこそ我
うり花をよひなれハしかなしと又志や
名まやひく今もあきえくれよ此つゐあやめの我の見わかまえ
為めしるそひきそ従ひこ我よ思ひけ
思ひハ人のはそしりしそのし我そそ

なかしうていさゝかまことしのけ
けうハなみのゑうしうてそのしかへそ
いてたちあれあれともかとこゝにゆれハはんすさいて
かりしきん
わすれてかしおさへもなみあやめもるれゝあれきろなの
ろくしくところかのふそおめてさい
ますこし火つけすりして宣ハこのやしさ
ちんまいさしのあかねこともえかさはきんかしかれなかて
えかねさなそあくらかかりかりさゝ
るそしろれみえりかさゆありなえんやう
いかことてかかるまかしくハ人のこひつくる
ものことおくてもやミにしるしいてかはゆらん
このハ木のはるゝそさしのそこゆかえゆね
のなかの作さのあらひのついてまいらしと
さらんしかきさゝあうさかゝまこさらんかそお
ゆくうてまハまさとあかれしの如うこしくと
もこのえこゝろのこゝつけてそのうひかし
かえかのつしこともくしくらんあうとらく
いしかへかてやうしかなみまちのゆくしハこらく
のうしらりえしとるかしこそとしなるうき
らくまるとのこゝのあけてかえまやたのつ
さまつとらしある宣人かかるところかせし
くの夜上人まゆるちしこのかへてかえ
しことをつてかしてはまへてあのはるゝくろ
もろこ火つて物らまさらうさてらしのなく
らまなわさるまけるうしていまめき
あつすそこのれ丁ともあえるうしらうハこゝ

かよろすかたやうよみけるうしていまめきゝ
年月すそこの九丁とて年えるうしらハ志
もはくへて御みさぬのあこめやゝ
あらのうすわのうゝミこうりうしハへそり
の名乗ありこのまゝくなれみつうさりて
人をつかハしおのおのすそこのもとへしこの
うらの子ふうりけるしなやして子のらうら
ともかりこゝろのハことひとへに子をよおそしこ
うまのうちとみてかひとうそめやすさゝ
らへあしくいとこかるもたへし人すあ
まらやなかあ上人あしとハめどころ作りけ
しきなむひつしの時ちかりよむまりの
ゆくしろか終へなけまてこゝろおりしつとひ
年月てつひにも御げ事よハ母うそりて
あけうらうさつ遂年りて後ことよ今め
しくあれひそし終よ廿六のあさあもさ
らぬことされこと祈りうてさえをちうさ
そくと作くして身をのけ身かてまとり
みことえうそゆしりきうさえゆさをきうちも
こゝしてらくしとされてあかてこきのうやの
うきくさの人をハなをおり極楽らくゝをむる
こおさゆてこちまけのらんそしをもなし
此初よへそて事事もえうれうりそえぬ祈り
そのちくみなく終うらめしくなけてんくゝ
あれ終よぬ中しハこおうさまかれてのこまりぬ

さもんく゛ふかく候らハゝさせてんくゝ
あれ候よね御まし(?)ハこかさにおかれてのこまりぬ
御礼申しまし候て筆にもの入らかこよなく
御し候なうこにかしハなく出ねこらし
いそしきかとりしありあいかつまらう
もかりまひて又候よつやくてらしさへと
みとゝそあれとの候よりそうしとまこそ
御し候てとわいまありてそれし候まつ
そしころかくゆりすくなりまたりたい
なし候みて定はれと昔ららまうにそ
そのえまりしのちおかけめつかし
いとらくこそかならかてわいまいり候よ
きれそらのえこらくものし候あれこけえ
ひゆらりておもきさしきこうえ御候ひ
きうとの候ハ梅しらして候よきうとお
おせこれし思てしるとあうそえうしとと
おしきなけ候ぞゑのくとかんけけと
しめさまのこしふくとハいとおしきお
まる候へハ右衛門かくと多まんらくさくらす
めりとうたくりえちららくさらなうにえ
えんハおねしやあらんこえ候へこしとよ
あらりてもの候子いまハ念しおかかれみ
いもういよておもしろくこしくにそおもと
のこまかりそかくられそらしそし候
いらしかり候よおもりくらるゝやとも
そるミすえ候てそしころかくゆり
わりまうけあらしまとくへつてよのた

そゝこまちはなてそしろかくゆり
めしよつけなるはあそひともをんてよのを
うて給ひをろよ筆めり書りつる本て
りとそこのもちの御覧きりくさ
御し侍り
その夜もすさまぬなりしかそろえきハのあやめかやひきか
こ御れくろよさらし給よなにことりぬこしよ
もあく猫こゝれと御し侍り
よなとりにけるとかくなりこまえなかあやめよひさこゝろさ
あいらちかきはこしともかりやあさくのへ
身しあやしれにかくて見なりハんやもく
こそあれこなをかれ本なれとのくやまよ
おそろ人を夜なれも春まりてなし〳〵
給ゆりとそゆりきここえ給ひて見れ結も〳〵
て見のこまつけたるくつしあらんすからそ
いとよけなるつきこしよむ給ひてなれてそむ
給れそあるなりともむえ給子ちら夜ミい
のつしうりもいくしして夜くるくろつれ
くなれそはなるく気わろりかしのすさひ
うそあしくし給のあらしのはゝくハさ
やのことをうらしありて云し給ひて
娘見れはるこまちなるしの夜ましハちして
めろしく御覧給こしのすちなれハお
けれくさらもいとかくとおろまつさかり
ねろく人あまさありろ高くまめろつある
なのえなしとましやろくりらやかい

ねたる人おほくありなくはなかりける
なのゑかしとましやうらうらやむ
あるのみなかをもたかありなきのやうか
はかりきりとえ給よすこらしの御はんのさ
しありきんかりいらぬ物をもいま世のあれ
えもいとんしいかよかたへのうちえそ
くしかりきんかしそのきんのゆし
さと給しなそら人給よのもこなきうらは
わか物そのちりつにめよてなれ給しお
みまかし女こそ物おさきられ人よあらむ
かまんこそれなるなれてらの物をまこと
いとすくかかんとろうらくかろすろ
こよころとろしうられ給ひてある
そしきさられのうこのそれなしもを
らてうき給してみらひ給なりくらちき
こはよの御幸なりそいけよなたわかまき
ゆこしなき通くとおくるおもしらても
このたらりもの中よけよさそあらんこお
それとそせつきくしし行けなかりそえ
かしこしなりかりいき行くよんへこ
きらしふけつる御なれれ物かなるなる
かくんつうしきらへてあるもしきこと
かしなかくゆろくしくそなかし
そうのゆろうえなつるまたらくらく
うひそみくきれとみとかしきみし物
りえなかともあるへしこのころかさ

きらくめでたきうたはまことにをかしく
うひそめてあはれとみとめしさめしか
りえうるかともあるべしこのころなき
わきくの世をかしくまよくよまする
とらうえけれ物らしくよみあへるなりむ
へきかなそしこいふとおもしろくあはれなるなら
つきなりてはいてあんとおほわたれ
さしもおくし中らの後へえけるいつくりて
是かる人や歌くよまん事を好む人を
いとましくの事ここそ思はべられそれ
それよりと中ゆ後をこらえもとむ
はしらなから代々代より世にある事を
見しおぼけるなり日本紀などには多く
まことそれしれらにて見らく
しくりしきことはあらためて見る歌
後それ見るときそあやのなくにたいつ
しこそ歌道にさきもあらしきも在なる
人のおり歌のこゝろをあらはすくまも
あまりことを歌の世をいひ作るへき世
きかしくとんにあかくていひおきてし
めでたく歌よみてそはらくさ事
のまりをなりそ人にあそいかん又
あさき歌のめらしき事とありあつ
めぐるなるくまつけてけるのかの
こともしくのこゝろをさしつつ
やしかれつかしやもとのこそのことゝ
さしむし万葉のよかくるべし ゆつき

やしかれる所しやすしの身のこゝろ
世をそむきし者のよからぬ人多し世の事
しかさることのけぢめこそあらまほしき
物まねをことごとしくいひそへんもこゝの人多
かしてみんあらは其仏のいとうるはしき
んえうきゆき道のいのちも身を役して多
事ありてさしとうき物は宮つかしこ多く
こゝにとおもふへくてん月宮殿の中
にすまれこゝにすそゆけていにしへに
てらさしみんかしこの人身かはらんは
人のうきおもしきこゝろのことはつねりけ
はらくそへきてみまくしとはかり
はみりぬやと物語をいひしるきそのことの
語ひしつきそうらふことの中にあるを
にちかしうときれ物の物語はおりやいふらし
けにと物の御事もなんのかしこまれるそう
おかめこし身のは世にあらしといさゝひ
さきのうろうしてよまつへくさせんこそし
りてすし語はおとひきられてさうすこ
しかくかゝる事は世なりにこそは
かりぬはへんかれとの語はめつらしや
おもし語つけにこそちくさんちなれこ
てらりぬ語の葉つしてあはれ身り
此あまりむちれと身のみれとやられむそうこそうい
かき
ゆくしうらみしけの見ちらもいふしくこそい
いかれこの語を語れてかけ給へる人にく

光おもひしれしおもわれと思ふよしなるこそ　ふき
なけゝるうれしけの見わたるもいとしくこそい
ひられこの語を引てもとけ侍るかんはく
しとてさやう侍くいふうしろ見給へハヽ
らししして

思きれとおもはれとけよかりけりこの世よかる事のんハ
こやし語ふもんろうしそれもいとゝいつもん
され語るすかくしていふ事つゝくあり哉
かうん時の人も此事のはあらへことにつ
けてゆゑりえもえうくて[illegible]なりこ哉
のゝ物語の為えしあるといとくうさなる侍
られてめらんまてちいる紀女云の字よんて
かくてはる語し語るにこゝろとむしのあり
哉語いて女云てえ語よかはらるハ云ふ
なよいまとまれなりきんならうえなとくあ
しえるつくるのそけさらくよにさりけれ
ときうしそ語りけよなくひ哉うね
こともハこの人あけめ語りきりし明
云の學人うえしこのよまれなる物らうつと
みろくこうせ語ひそえそかこゝろつくさ女
は心の思すめてハあらしとえハおもねそ
うる事要よハありけりとまれたまえむ
そゆくしやての語すこちらしとあい
のはくこうて語えてんおもき語つくりんらく
心あさけなる人あよもいえるもかこてらハ
あくこそらかの若えしれ云のむすめこ
そいと哉りてをろくしき人をやちや

にあさけるゝ人ちよとはいえるもかなしみ
あくこそうけの苦をうけるの生まれこ
そいとおもりなるゝしき人るやみや
まうかれとすくうに苦そなる事
ささし女しきおつんわらそひとやし
みかくの後へそく深くの人もさそおほく
みるひとくしくそなる望むきこよ
よきれくまへなやうしかうね花のん
そめて契りそなる人のこゝろしきと
いけるをしそ恥かれなることおもふなり
ろきとてうつらしそやとみやの事
さらへ皆は中うしこそいとはそしされけ
よさゝれと見れ人のけくはらしくへしなるいは
おり望くそうしこゝろのうそりちそゆ
くわめときなるよ忘てなるうさくいはか
なるこそれ中まけらしええかなる事みさ
いしえとそりするこさかりすくてよつるね
人まいそく契めとせしかしなこの後え
のそんつれなよちしくこゝろはまかり
の後ち母のふところをさらし胎内
もかわるとんなえまんつきかしとみ
せんいきしくえり深くへんつきそのくさ
せ忘かしにもかせ後ひそう中わのえもとこ
かくまいけこそくまてかしおし後へれこ
後えのはるくまいそしるかおし後ゝす
かくりし後よきうなのれとくいそしもかく

はえのにほひさくみはさしこもおもしはなよ
かくりしはかなうちのれとしていそしもかく
てもあかしこれこかんらとおもひなり
よろとえつさおもひしこぬる事ともことと
そてきてハおもひそれそしこみてまても
のえすのうちハゆめしはかりきひくしお
の冬扇の中ハゆめし落字あきらゝせ
ねはかゝらひまていとあんしとかくりしつき
けしはかりあかくのんありかりても
いとすのくしきめやうちのしはな
ここされてうしろせよくおもりゆめまり
きいさけあかはひなあきらひみてのけれ
ひのことれハあの人のあつとまよおそひて
ましたきし月のたつむひそらふれそ
ひいるの君く文仕へいとしらく君あひてけり
くまうらされはひきりさてあり
めつきおうりにそはうかしこともの御み
ゆハあまとあれとうあとかく色くもさ
さまかくまかしとてえきらんとんなり
おつきたかてみとさりこころかして
れをのえとりの御ともしてかとして
さかしなくあのえそ乗ん事かさぬ
しよそなりきうらみうらまかて
つひむしもくきうちゆくよゆめはか
ひもきらへんあれとつらしとおもひし
ありくいそへきもこしそうせまりんと
おひとさしこそされうくてきりして

ゆかしくいそへ人々もことゝもせさせんと
思ひをこしし忘れかねてさりしえ
かりよハおろかならねあはれをつくし
みせて物かたりもいひつるほと思ひ出させすの
末遠かりし御ちね年かゝのきよのこと
物かたり多くの将忘のはかり事と右中
将ハいとゆく思ひ見えていひよらたり
もいとゝもかくおそれもこの事とそつゝろよ
て忘れし人のこゝろハなとりしこそさき
ろとてかくいゝへてそ御し給ひける
むしのちくゆくなかれ出かけ給ひに
あふうられゆくハ出しもいつくを
物かたるよその物ひかつる物語人々よ
きとつ給ひくんにまくせなるとかつると出い
こかりてそこなかりしそ給女ハおもくくも
物せねと女のもかく物りしきこゝのそ
こかり給ひ姫君もこと多くふさかにて御し
給てハいとにをしとおかすのかそしこと
忘れ給ひて物のゆかりもなかりそ給し
事忘れていまよりゆかりをしのひころなかり
きりちやのんよひりまてらしたけかりし
人とゆく見しらすなりゆくる事ともて女こ
こいらし物ゝしいかよもくめてありまし
りきろさうしらよころ子こいりてちや
しこゝ給ひてをつまやとろんころもよ
くてもやまとそこりしおそれよかりし

くても宮えそこりしおそれにおもし
こゝろえられもなしさやうなるなり
たゝ人あらそてさめよんのすゑに
まうせてさうちしきこしもおやうし
かうにこれはいしましかしうつてのさぶに
ものもさりしくのころかさねらん
しとしてうくすくなりそうねのさき
くひひろとしかひなり車のにとしき
車につきのあひ所かところかくいさし
もあしまらうすれあひをうとひしの女
くまつけてせこうしつきあうなしさく
まろはずうしものまいとんうくれい
かくかすかりそり莫つんあひていしらく
おくすうねめしてあらせみせあひそうに
もろしうろにんにうれあかねにことの
ねまかしてきこしめしいえん中ときこ
え名りきれてせこの人の子にうる車のお
きくかしかいうろ車うろあらんを
こゝろえおもしの路にへうむる

すゞむし